

だんないの道

第43号

2020年5月26日発行

発行者：NPO法人CILだんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1	ごあいさつP2
新型コロナウイルスP3	今、やれること～これからP3
ステイホーム!P4	ステイホーム2P4
感じたことP4	しずまれ コロナ禍の世P5
どこまでも訊けるヘルパーになりたいP5	将来の夢P6
私の『お家じかん』P6	ヘルパーとして、人としてP7
活動報告P7	コラム ヨリの雑記帳P8

代表 あいさつ

世間は、新型コロナウイルスの影響で外出自粛や自宅勤務の導入など、さまざまな社会の変化が見られています。だんないでも、当事者メンバーに自宅待機を要請したり、介助者に必要最低限の出勤体制でシフト組みしたりなど、対策を考えるようになりました。活動ももっと縮小せざるを得ないことにとっても残念でなりません。6月に予定していた、毎年開催の記念シンポジウムも延期することに決めました。前号で、高らかにご案内していたのに申し訳ないです。ただ、基礎疾患のメンバーが多いCILにとっては、感染予防が最優先なので耐えしのぎたいと思います。

一方で、ほぼすべての予定がなくなったことで、毎年四苦八苦しながら準備していた総会資料に早く取り掛かれたことはありがたかったです。また、これまであまり気にしていなかった消毒液やマスク、防護具などの衛生用品の在庫が確認できました。おそらく、このような機会がなかったら、ずっと置き去りにしていた問題だと思うので、その点では良かったです。いずれにしろ、コロナが一日でも早く終息して、活動が思いっきりできる日を心待ちにしたいです。

「コロナ、コロナ」としょんぼりする話題ばかりを聞くので、今回の『だんないの道』は前向きな内容にしたいと思います。コロナ終息後に向けて、どんな活動がしたいかや、今何を準備しておくかをメンバーだけではなく、県内で活動している障害当事者の方々に原稿執筆の依頼をしました。それぞれの熱い思いを感じることで、明日からの活力にしたいものです。

その中で、私の思いとしては、滋賀で活動している若手の障害当事者のネットワークを作ることに力を入れていると思っています。今のところは12月に長浜で交流会の開催を考えており、そこに集められる限りの若手当事者を招きたいと思っています。いろいろな人々と交わることで、新たな活動の輪が広がっていくことを期待します。コロナで、当事者仲間をつくるような活動ができていませんが、電話やラインなどで新たな出会いを求めていきたいです。

私たちにとって、今の状況はとても辛くて苦しいですが、「今」が「過去」になったときに「あの時間は決して無駄ではなかったな」と思い返せるように、「今」という時間を大切に過ごしたいと思うこの頃です。コロナウイルスに感染された方、関係者の方々に改めてお見舞い申し上げます。

ごあいさつ

マルチスイッチ 木村寛子

こんにちは。マルチスイッチの木村と申します。よろしくお願ひいたします。

実はこの4月に一念発起で、障害者のためのイベント企画を中心とした活動を始めました。

「マルチスイッチ」とは、誰もが持っている自分だけのスイッチをONにして、輝く生活を送れるようなことを一緒にしていきたいという意味を込めて「マルチスイッチ」という名称を付けました。主な活動はピアサロンやピア活動、障害者を主体としながらも地域の方も気軽に参加して頂けるようなイベント、例えばメイク教室、ネイル体験会、マナー教室、料理教室などです。自分自身、何かの教室に参加したいと思っても自分に障害があることで二の足を踏むことが多く、実際にあきらめてしまうことがたくさんありました。

障害があることは誰のせいでもありません。なのに、どうしてやりたいことを諦めてしまわないといけないのか？私はそのことにずっと疑問を感じてきました。

そんな、誰もがやりたいことを応援出来たらうれしい、そしてそのことで、キラキラ輝けるきっかけになればもっとうれしいと思っています。

また、地域の方にも参加していただくことで、地域の方と障害のある方との距離がより、もっともっと近くなり、お互いを認め合い、当たり前存在となることを願っています。

もう一つ、活動の一つとして、フォーマル衣装の貸し出しを行っています。

車椅子に座ったままでサッと羽織れるような、ポンチョ風の衣装となっています。

私がこれを是非活動に取り入れたかった理由は、たとえ重い障害があってもキチンとした衣装を着ることで、堂々としかるべき場所に参加してほしい、という思いがあったからです。

大事な人のお祝いの場、大切な人とお別れの儀式など、自分自身もかけがえのない一人の存在として、参加してほしいと思います。

皆さんもご存知かもしれませんが、たくさんの障害のある方が殺害された事件がありました。しかし、名前を伏せて欲しいという家族からの希望がありました。私はとても心が痛みました。しかし、あの報道は決して特別なことではありません。私たちの身近にも、よく似た話が存在しています。家族の結婚式に出席できない。葬儀には来なくていいと言われた。これは、名前を伏せて欲しいという事と同じではないでしょうか？それは暗に大変だから・・・という事なのかもしれませんが本当にそれだけでしょうか？そして、本人も諦めてしまっているという事はないでしょうか？そんな疑問を抱くのです・・・。

もちろん衣装があったからといって、すべてが解決するわけではないですが、まずは第一歩として衣装の貸し出しを始めたいと思います。障害者だって、おしゃれしたいし、認めて欲しい。そんな思いがあるのは当然なのです。そんな思いから、この活動を始めました。

こんな世情でイベントなんて・・・と感じられる方もおられるかもしれませんが、こんな世情だからこそ、コロナ対策をしっかり行い、元気が出るような企画を考えていきたいとおもいます。どうか皆様ご理解願ひ、温かく見守っていただきたいと思います。

新型コロナウイルス

大橋早香

2月頃から世を騒がせている新型コロナウイルス。最初の頃、私は、中国だけで収まるだろうと甘く考えていました。しかし、ニュースを見ていると、日本だけではなく、世界中に感染者や亡くなった方がではじめました。スーパーなどに行くと、カップ麺などがほとんどなく、事の重大さを身をもって感じます。

最後に感染者の方にお見舞いを申し上げますと同時に亡くなられた方にご冥福をお祈りします。

一日も早く新型コロナウイルスが終息しますように。

今、やれること～これから

オフィスゆうき 中川佑希

今は新型コロナウイルスの影響により講演活動、会議、交流会、計画をしていたイベントは無くなってしまいました。でも、諦めてはいません。必ずやりたいな。いや、やります。

正直、生活はかなり変化をされていてヘルパーさんともいつまで続くのかと話しています。

介助の方法を一緒に考えたり、掃除にも力を入れています。

そんな中でも悪い事ばかりではないなとも思っています。一つは家族や友人と頻繁に連絡を取るようになりました。「会えない」からこそお互いを思いやれる。改めて日頃から繋がり大切さを日々実感しています。最近はオンラインで話をしています。ZOOMで会議や今流行りの飲み会も初めてみました。最初は抵抗感がありましたが、周りに勧められて・・・

実際にやってみるとアリだなと。子育てをしている人でも参加がしやすいし、遠方の人とも気軽に話が出来て、そしてすぐに寝られます(笑)要するに出来ない事に目を向けるのではなく、こういう時だからこそみんなでアイデアを出し合って前に進んでいきたいです。

今年は私にとって自立生活をスタートして10年目になります。なので、コロナウイルスが終息したら思いっきり活動を展開していきたいと思っています。

ステイホーム！

彦根 ILP

彦根 ILP は杉本・岡田・小里の障害当事者三人が集まってつくられた団体です。
内容としては、料理 ilp やカラオケ・飲食店巡り・図書館・博物館などに行くなどの活動をしています。
しかしながらコロナウイルスの影響で本来の活動が出来なくなりました。
そのため、室内でできることとしてライン会議や世間話をしたりしています。
一日も早く落ち着いて元のような活動が出来ることを願っています。

ステイホーム 2

小里和也

僕は、新型コロナウイルスの影響で自宅待機をしている。
でも、この自宅待機で改めてがわかったことがあります。それは、自立生活(自分の生活)をしっかりもう一度見直すことができたことです。何故かと言うと、明日の夜ご飯を何にしよう、明日は何をしよう、自分のやりたいことをすごく考えるようになりました。それを通して、自分の時間をどのように過ごしていくかとか、自分がやりたいことを見つけるようになりました。その中でも、あまり時間がなくて見れなかった Netflix(有料動画サイト)の存在です。それで、世間ですごく話題になっている「鬼滅の刃」を見ました。僕はそれまであまりアニメを見たりしなかったのですが、見てみるととても面白く僕はどハマリしてしまいました。皆さんもぜひ一度見てください。オススメです!!
自分の時間を大切にしてください。これから過ごしていきたいです。
ただ、自宅待機が多くだんだんにあまり出勤ができなく、だんだんイベントを開催ができないことはすごく残念です。
1日でも早いコロナ収束を願って、体調に気をつけながら一日一日を過ごしていきたいです!!

感じたこと

市村剛

自分は実習を含めて今までB型就労に行っていましたので他の仕事はどんなものかそうぞう出来なかったから初めてだんだんに来る前はすごく不安でしたでも実際来て見たら自分が思ってた社会とは違ったので少し驚きました。
だんだんで仕事してて感じた事は人の体にふれる事が多いから持つとき落とさないか心配になりますなので自分はタイミングを合わせやすいようにかけごえをするようにしてます後はわからない事が多いのでわからない場合は聞く事にしていますその中でも一番難しく感じるのは距離感です距離感を間違えて少し離れようかとか言われることもあります。

しずまれ コロナ禍の世

H.T.

はじめまして。3年前に彗星（あるいは隕石）の如く突如だんないに現れたH.T.です。入社して3年目、ほぼグレーゾーンの発達障害である自分はだんないと衝撃的な出会いを果たし、障害観や社会観が多少変わってきたのかな？と微かに感じられていると良いなあ。

私は普段ヘルパーとして勤めながら、時折近所の高校でとある学生さんの支援を行っています。校内では身体に関する介助はもとより、代わりにノートを取ったり、テスト前には一緒にテスト勉強したり、微力ながら学習面の支援もさせていただいております。堅苦しく言うとインクルーシブ教育の実現、平たく言うと「誰でも」「一緒に」学校生活を送ることができるよう、法人内のチームで取り組んでいます。

さて、昨今のコロナ禍により学校は長期間の休校状態となり、ずっと家に居る学生さん方のことを思うと焦燥に駆られる日々です。教育の目標には社会の中で生きる力を養成することが挙げられています。すると共生社会を形成するうえでインクルーシブ教育は重要な立ち位置に存在すると考えます。長期の休校で学校内における学生同士、あるいは大人と学生との間の「社会」が形成されなくなるわけで、共生社会をはじめとした学生諸氏の社会性の育成に、学校にとって外野ながら危機感を覚えています。もちろん、休校措置は感染拡大防止のためやむを得ない措置であることは重々理解していますが、先に挙げた教育の目標が達成されることを切に願うばかりです。

ちなみに今までの話題に全く関係ありませんが、私の好物は牡蠣です（特に生）。早くコロナ禍が静まり、ドライブに行って牡蠣を存分に堪能できる日が来ることを待ち遠しく思います。

どこまでも訊けるヘルパーになりたい

横田麗

だんないで働かせていただくようになり、早一年三ヶ月が経ちました。

だんないとのご縁をいただくきっかけになったのは、当時同じクラスだった山本くんからのすすめでした。

それまでは福祉に対して知恵も知識もなく、少し興味がある程度でした。だんないをすすめていただいた時は、学生の私でもアルバイトとして働くことが出来るのかなど、経験も資格もなかったことから不安でいっぱいでした。それから研修を受けさせていただき、一年三ヶ月たった今少しずつ「指示介助」というものが分かってきた気がします。毎日に変化に富んでいて学ばせていただくことばかりですか、これからもやる気と若さだけは誰にも負けない覚悟と、初心を忘れず「どこまでも訊けるヘルパー」を目指して精進して参ります。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

将来の夢

山口光優

私の将来の夢は、人の助けになる仕事に就くことです。なので人の助けになる仕事を考えました。こうして、あらためて考えてみると、この世の中にある仕事って全部、人の為にある仕事しかないなと思い、どの職業に就きたいのか悩みはじめました。なので、私はどんな人達に助けられてきたんやろうって考えた時に、1番に出てきたのは家族でしたが、友達やバイト先の方達や学校の先生や私の好きな芸能人や歌手や声優さんなど本当にたくさんの方があっての今の私があるな—と思いました。でも私はここである事に気が付きました。芸能人や歌手や声優さん達ならこの人達やもっと沢山の人達を元気付けたり出来ると思いました。けど、私もその方達に元気をもらって助けられてきたので、その方達のマネージャーになったらその人達の助けにもなるし、間接的にはあるけど、沢山の人達を元気付けられ助けになれると思ったので、私はこのマネージメントという仕事を目指して、これから頑張っていきたいと思っています！！これが私の夢です！

私の『お家じかん』

田川秀美

「せっかく家に居る時間ができたのだから楽しくすごそう！」
新型コロナの影響から世界中では「ステイホーム」が合言葉のようになり、世の中がピリピリムードの中このように思うのは不謹慎なのかもしれません。
日々の買い物も週一度に。趣味の習い事も自粛で全てキャンセル。テレビから聞こえてくるのは気が重くなる内容ばかりです。
自粛・自粛・自粛！このままでは心も身体も壊れてしまう！
実際、私自身もストレスから体調を崩すことがあり、このことをきっかけにせめて「お家じかん」だけはリラックスしてすごせるようにしたいと思いました。
まずはテレビを消して好きな音楽をかけて、愛犬（14歳）とのんびりすごしてみたり、ちょっと手の込んだ料理やお菓子を作ってみたり。撮りためていたドラマや今まで見逃した映画をネット配信で観たり。夕食時にたまたま家族が揃う日には、テイクアウトの料理を囲みながら何気ない会話を楽しんだり。これが今の私の「お家じかん」。特別に変わったことをしているわけではありませんが、リラックスしたことで、いろいろ気付かされました。正直今までは、家でのすごし方をあまり意識せずにはいました。今回一番感じたのは、今までいかにバタバタと毎日を無駄にすごしていたことか！ということ。
思わぬ自粛生活、これは、人生の後半戦に入った私がこれからどのように生活していきたいかを考えるきっかけにもなったような気がします。
楽しくすごしたい「お家じかん」
でも、やっぱり外でも思いきり楽しみたい！
そんな日が早く戻ってくるように、今は収束する事を願うばかりです。

ヘルパーとして、人として

津田恵美

だんないにご縁をいただき、お世話になるようになって、はや8ヶ月が過ぎました。20才で社会人になってから20年余り、障害者福祉にかかわったことはありませんでしたので、全くの未経験、無資格からのスタートでした。右も左もわからず、とにかく皆さんに迷惑をかけないように、まさに“必死のパッチ”だった私を、当事者さんをはじめ、ヘルパーの皆さんにもあたたかく迎え入れていただき、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

少し、だんないの雰囲気と仕事に慣れてきた頃に、資格を取るために大阪へ講習を受けに行かせていただきました。講習では障害をもちながらも実際に自立生活をしておられる先生のお話を聞かせていただくことができ、だんないの皆さんとの関わりと照らし合わせ、自分なりにかみくだいて理解することができ、とても有意義な時間となりました。実習でも、実際に自分が車椅子に座り、街に出ることで、今まで全く気付かなかったこと、気付こうとしなかったことを思い知ることとなりました。

8ヶ月たった今でもまだまだ未熟で、日々勉強中の毎日ですが、これからもだんないの皆さんと一緒に日々の生活を楽しみながら、人としてもヘルパーとしても成長していきたいと思っています。皆さん、これからも末永くよろしくお祈りします。

活動報告

4月1日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議	美濃部
5日	ピープルファースト花見	
6日	だんない祭り実行委員会	
7日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 虐待防止分科会	美濃部
8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議	美濃部
16日	企画会議	
18日	ネイル教室打合せ	
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 新型コロナウイルス感染症対策検討会	美濃部
30日	ZOOM 会議	頼尊
5月7日	企画会議	
13日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議	美濃部
14日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護医療検討部会	小里
18日	企画会議	
20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 虐待防止分科会	美濃部
21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護医療検討部会	小里
22日	相談ワーカー部会	美濃部
25日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
29日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部

・参加者の欄が空白のところは、当事者職員がほぼ参加(欠席者が1人あるいは2人)していたことを表しています。

コラム

ヨリの雑記帳（42）

「さあ、何を書こうかなあ」と迷ってしまう。最近は、コロナウイルスの関係もあって外出する機会はほとんどなくなってしまった。体中がウズウズする毎日を過ごしている。6月になるのを心待ちにしている状態である。

人間という言葉は、「人の間と書く」という有名な言葉があるが、まさしく三密を防ごうとする生活の中で、人間が「ヒト」という動物のようになっていないかと考えている。なぜなら、人の間という関係性が希薄になって、むしろ自己中心的な感覚になっている。日頃、自己中心的な生活をしているボクがこんなことを書くとおかしな話である。でも、日々聞こえてくるヘイトスピーチに辟易（へきえき）している。ひねくれた考えを持つボクとしては、このコロナの問題で一番大変な思いをしているのは誰なのかということはどうしても考えてしまうのである。普通に考えれば、治療方法も予防方法も確立していない中で実際に発症し、生死の境で必死で生きようとしている人々であり、その人々を支えようとしているご家族ではないだろうか。

「息子がA型インフルエンザにかかりました。」「身内が癌になりました。」と聞くと、「お気の毒に。」と発言するかもしれない。で、幾ら有名な医師であって、「私は癌を何百症例も治療しました」、「神の手を持つ医師」と言われる医師であったとしても、「感謝のエールを送りましょう。」と言われることはないだろう。しかしことコロナの問題になると状況が一変する。身内に発症者が出ると、引越しまでも余儀なくされる。仕事として事業を担当すれば過剰にまでエールを送られる。この二つの条件の違いは何だろう。

古くはハンセン病回復者やその家族への常軌を逸した差別、関東大震災のときに常軌を逸したデマから始まった在日外国人への差別、HIVが話題になると性的マイノリティーの方々に対する常軌を逸した差別…。数え切れない過去の歴史がある。

だんないのフィルムアーカイブスには、その当時のヘイトを扇動するような内容のものをいくつかは収蔵されている。今から見返すと、漫才を見ているより面白い。面白いというよりアホ臭い。でも、それらの情報は、公の機関が制作した物がほとんどであり、16mmフィルムという決して安価なものではないメディアによって広め伝えられたものである。念のため書いておくと「アホ臭い」と考えるが、当時としては真剣に莫大な予算を使ってまでもしなければいけないことであっただけであらう。

平時は、フィルムアーカイブスは、かなりスペースを必要とするガラクタの山でしかない。加えていうと、フィルムの劣化に伴う「ビネガー臭」という独特の臭いにおいを発する。旧事務所の倉庫棟は、「ガラクタの山で、しかも臭い」というイメージしかない。でも、このような時にはじめて、古いフィルムたちは、静かに私たちに、過去になった常軌を逸した差別の数々とそれを扇動した人々の思いを無言で伝えてくれるのである。

(よりたか つねのぶ)

NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 谷口健人

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、統括局長 小里和也

TEL : 0749-50-3639

理事 横山卓馬

FAX : 0749-50-3961

URL : <http://cil-dannai.jp/>

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp